



南部こんなんやるDay



南部ブロック管内の講座のご案内です。みなさまどうぞご参加ください。

《南部ブロック社会教育活動事業》

冬の星空ウォッチング

あなた 暖かくして来てね!!



とき 12月5日(金) 19:00 集合(20:30まで)

ところ ふくやまふれ愛ランド第1グラウンド

内容 冬の星の観察と星座にまつわる楽しいお話

定員 100人(申込受付中)

小学生以下の方は保護者同伴でお願いします。

申込・問合せ 南部ブロック社会教育センター 956-4641

ポ〜ノさんのささやき

世界でも類を見ない長寿大国、日本。ひとりで暮らす65才以上の高齢者は400万人以上にもなります。本当は人と関わりたいのに近所づきあいがなく、友人もいない。そんなひとりで暮らしの高齢者が少なくないようです。

高齢者を対象にした内閣府の調査によると、65才以上のひとりで暮らしのうち、6割を超える人が日常生活の中に心配ごとを抱えています。一番の不安は「病気・介護」ですが、次に多いのは「頼れる人がなく一人きり」という悩みです。

高齢者が孤立すると、心配なことが増えます。悪質商法の被害にあう。体調をくずしても誰にも助けを求められなければ、孤独死にもつながりかねません。

そんな事態を防ぐには、まず地域の一人ひとりが自分のまわりを見回し、声をかけ合うことが大切ではないでしょうか。近くに住む高齢者は元気そうか。困っている様子はないか。少し心を配るだけで高齢者の暮らしはより安心できるものになります。

お互いに声をかけ合うのは、高齢者のためだけでなく、安心して暮らせるまちづくりにつながり、誰もが気持ちよく生活する第一歩にもなるのではないのでしょうか。

ともちょうじんけんもんだいこうえんかい ほうこく
《鞆町人権問題講演会 報告》

いのち輝く瞬間 ともに感じてみませんか

「いのち みつめて うたをこぼせ」

～猿まわしとお話～

猿舞座 座長
村崎 修二 さん

はじめに村崎修二さんの猿まわしの歴史や現在の状況についての話の後、今回飛び入りで参加した大道芸人の上島敏昭さんのテンポよい大道芸、そして息子の耕平さんがお猿の夏水と猿まわし芸を演じました。



耕平さんと夏水とのかけあいは猿まわし芸の醍醐味。芸をするのかしないのかといったなかで見事に成功したときは大きな拍手が occurred しました。

周防ならではの人間と猿との信頼関係は、私たちの人間関係や子育てについてあらためて考えさせられました。

「猿曳き」いわゆる「猿まわし」は被差別部落の生業として発達しましたが、戦時中の禁止令により、猿芸文化は消滅しました。俳優の小沢昭一さんから「猿まわし文化を決して絶やしてはいけません。必ず復活を」と強く要請されて、1971年から聞き取り調査をはじめ、猿舞座を立ち上げました。

現在、猿まわし芸人は400人程度いますが、多くの場合体罰で短時間に強制的に教え込んでいます。昔ながらの周防の伝統的な方法で行っているのは3人だけ。

周防の伝統的なやり方は、子育て同様に生まれたばかりの小猿をもらいうけ、365日いっしょに生活をしながら大切に育て、猿と人間の意思疎通をはかりながらゆっくりと教え込みます。だから周防の猿の表情は豊かで毛並みが美しい。

テーマの「いのち みつめて うたをこぼせ」は詩人の丸岡忠雄さん

の作品の一節でそこに生きるものの生き様を見て、涙をこぼすので

はなく、希望のうたをこぼそうよという意味です。

